

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020040

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2	林業の振興	事業優先度	A		
単位施策	1	生産体制の強化	政策事務分類	2	単独自治事務(個別計画)	
事業名	町有林造林事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	森林施業の計画的推進		関係課	#N/A		
事業目標	人工造林 A=32.00ha		ハード/ソフト 事業区分	1	ハード事業	
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働			関係個別計画名	有 森林施業計画		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容		
計 画 内 容	整理伐木 A = 5.00ha 伐木 A = 13.28ha 人工造林 A = 32.00ha	人工造林 A = 5.00ha	人工造林 A = 5.00ha	人工造林 A = 5.00ha	整理伐木 A = 5.00ha 人工造林 A = 5.00ha	伐木 A = 13.28ha 人工造林 A = 12.00ha		
	事業費(千円)	35,826	4,410	5,040	4,970	5,800	15,606	
計 画 事 業 費	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	16,253	2,950	3,020	2,900	2,960	4,423	
	地方債	0						
	その他	14,240	1,000	700	1,000	1,160	10,380	
実 績 事 業 費	一般財源	5,333	460	1,320	1,070	1,680	803	
	事業費(千円)	35,243	4,330	4,444	4,968	5,895	15,606	
	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	16,320	2,856	2,962	3,247	2,969	4,286	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 人工造林 A = 5.0ha	(実施内容等) 人工造林 A = 5.0ha	(実施内容等) 人工造林 A = 5.00ha	(実施内容等) 整理伐木 A = 5.00ha 人工造林 A = 5.00ha	(実施内容等) 伐木 A = 13.28ha 人工造林 A = 12.00ha	
	町有林造林事業補助金 ニトリ北海道応援基金 助成金	【評価・実績】	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/拡充	※事務事業評価結果 A-継続/統合	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	人工造林 A=5.00ha	人工造林 A=5.00ha	人工造林 A=5.00ha	人工造林 A=5.00ha	人工造林 A=12.00ha	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		98%	88%	100%	102%	100%
		全体達成率		12%	24%	38%	55%	98%
	備考欄							

事業名	町有林造林事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	造林面積			
【抱える課題やニーズは】	無立木地の解消			指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	国土の緑化及び森林資源の確保			① 造林実施面積÷造林計画面積	目標年度	平成29年度
					目標値	12.00 ha
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	人工林の健全な育成			②	実績値	12.00 ha
		達成度	100.0 %			
		目標年度	平成29年度			
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	材の売払い	町有林(カラマツ40年生)の伐採で生じた材の売払いを実施した。				
	造林の実施	国土の緑化及び森林資源の確保を図るため、上記の伐採跡地に植栽を実施した。				

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林資源の確保や国土の保全など森林の持つ多面的機能の有効活用を図るべく、町有林施策を行う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、森林の持つ多面的機能の高度発揮に寄与した。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	森林環境保全整備事業の対象事業であり、北海道が示す標準単価を参考にしていることから、事業コストは妥当である。また、補助金収入と材の売払収入、ニトリ北海道応援基金助成金を充て、事業を実施することができた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

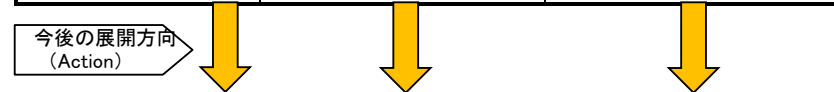
公平	判断の理由	町民の財産である町有林が持つ多面的機能の恩恵を誰もが享受しているので公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業の実施で、森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、森林の持つ多面的機能が高度に発揮されることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/統合		
町有林の整備は、除間伐・造林・下刈とそれぞれの事業として実施してきたが、森林を育成していくという目的は変わらないことから、関連事業を集約化して森林資源の充実や生産体制の強化を図る必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止